

島根県の地震

平成30（2018）年7月

・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

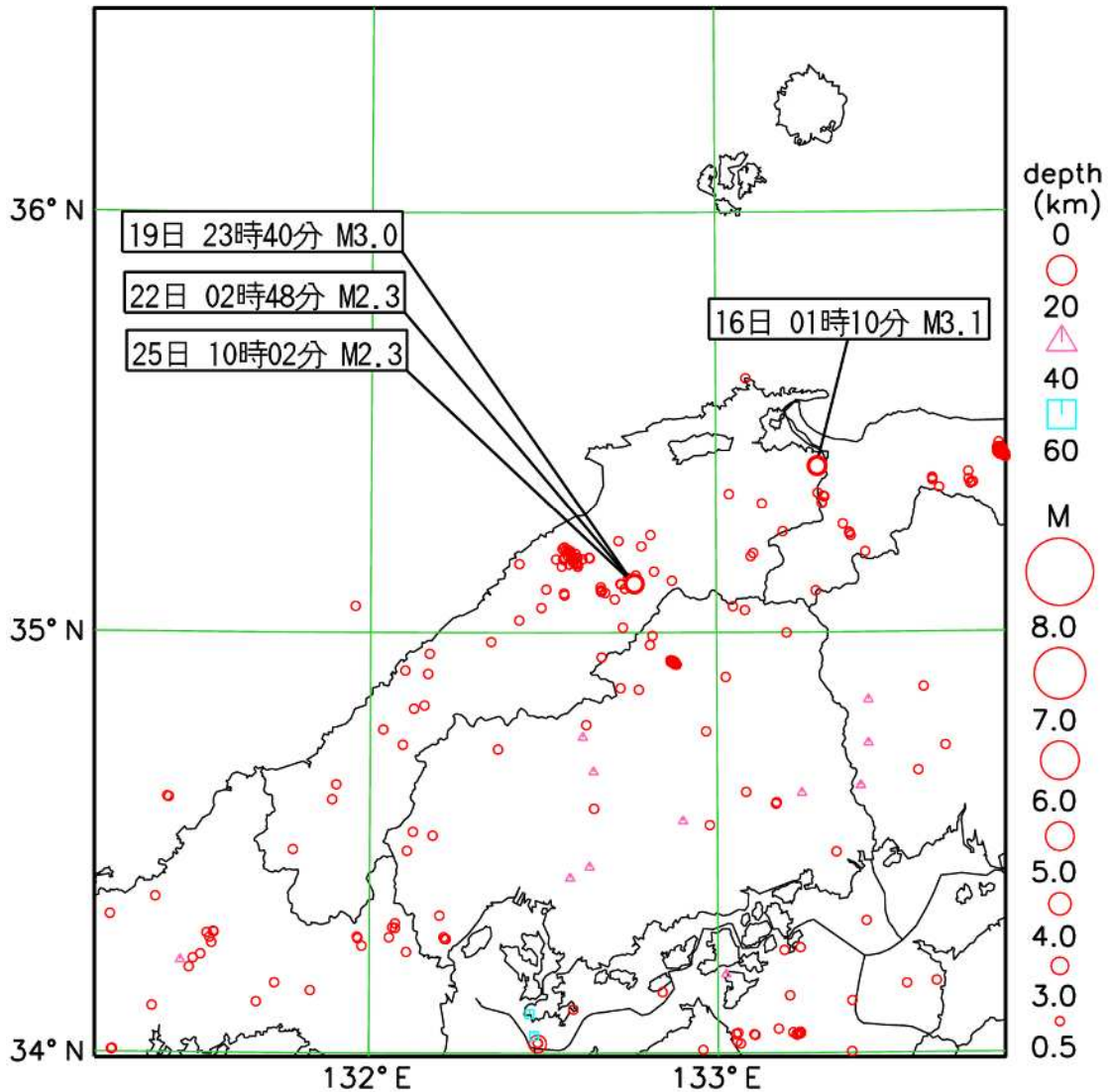
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。

松江地方気象台

島根県およびその周辺地域の地震活動 2018年7月1日～31日

2018 07 01 00:00 -- 2018 07 31 24:00

N=341



[概況]

今期間、M0.5以上を観測した地震は341回（6月は390回）でした。

また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、4回でした。

16日01時10分 島根県東部の地震（深さ10km、M3.1）により、安来市で震度2～1を観測したほか、鳥取県で震度2～1を観測しました。

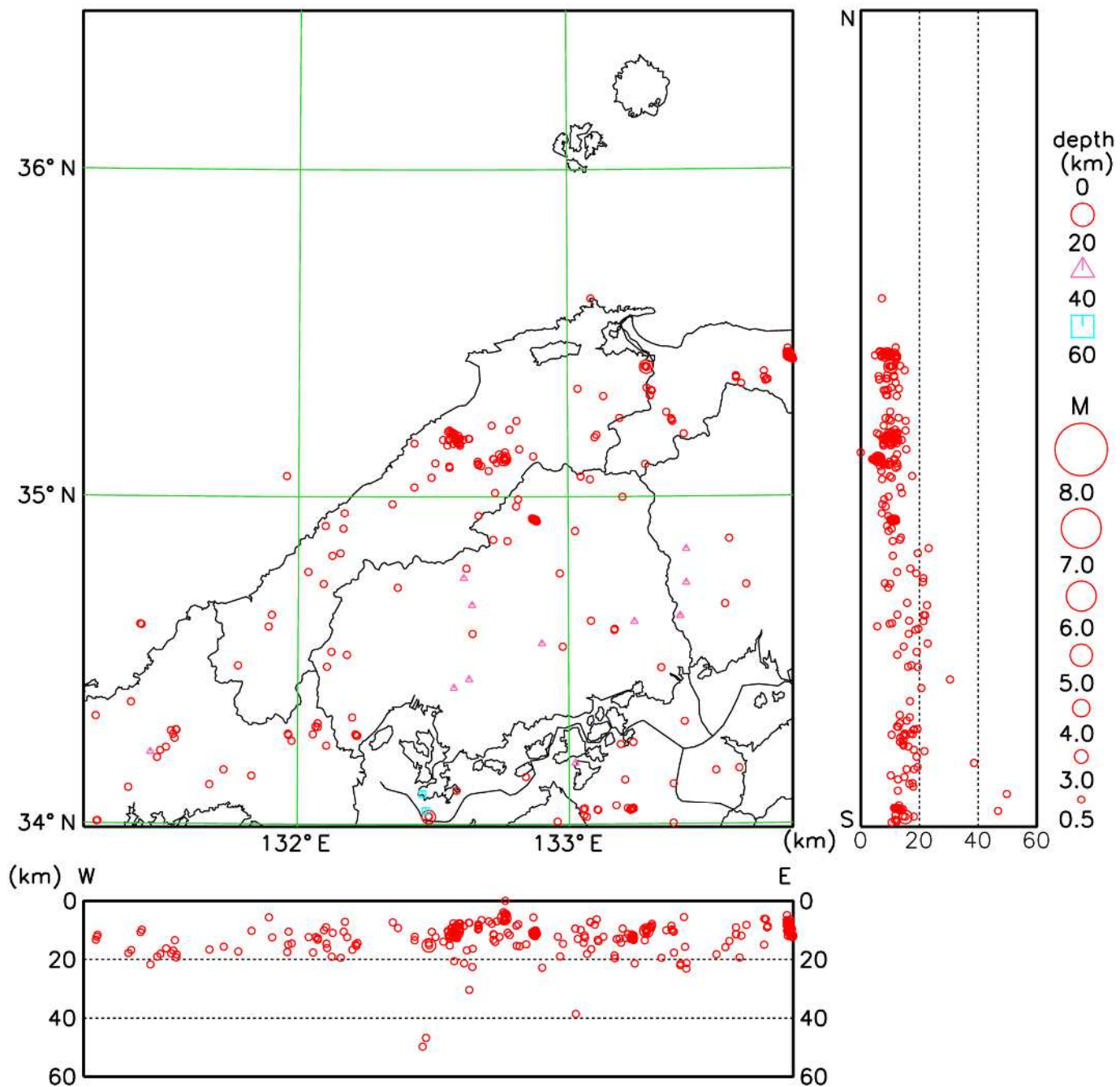
19日23時40分 島根県東部の地震（深さ6km、M3.0）により、雲南市・飯南町で震度2～1を観測しました。

22日02時48分 島根県東部の地震（深さ6km、M2.3）により、飯南町で震度1を観測しました。

25日10時02分 島根県東部の地震（深さ5km、M2.3）により、飯南町で震度1を観測しました。

[断面図]

2018 07 01 00:00 -- 2018 07 31 24:00



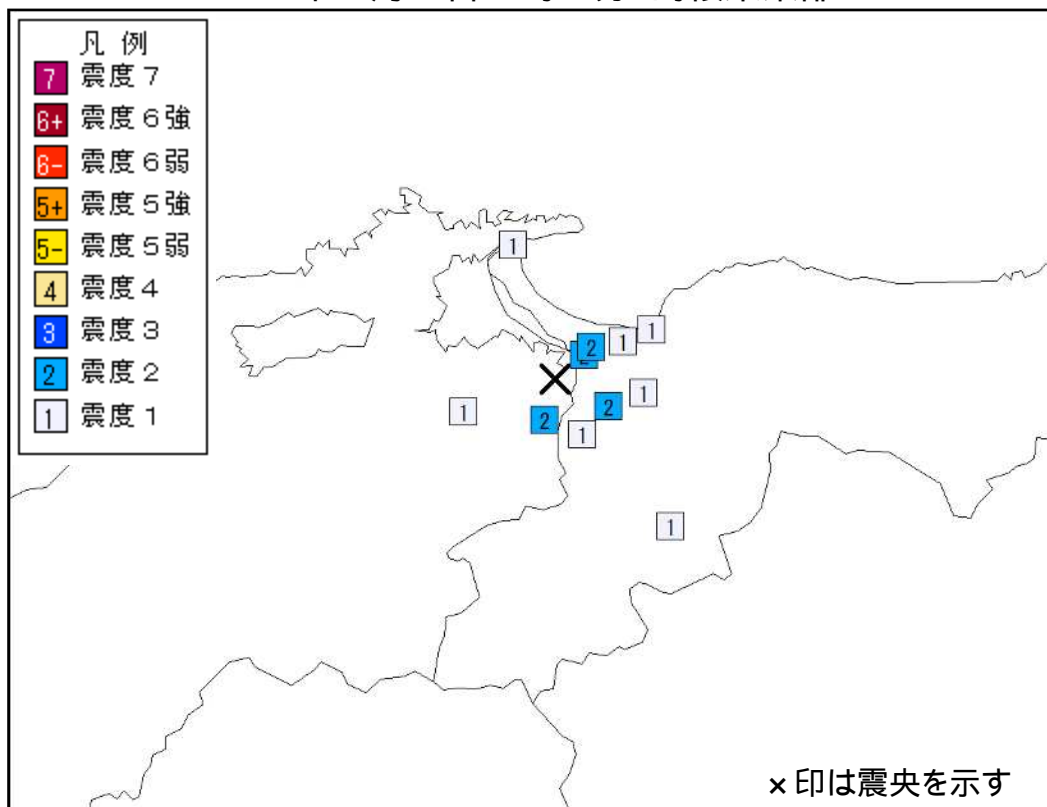
7月の島根県内の地震表（震度1以上）

発震日（年月日時分） 各地の震度（島根県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2018年07月16日01時10分 ----- 地点震度 -----	島根県東部	35° 23.7' N	133° 17.6' E	10km	M3.1
島根県	震度 2：安来市伯太町東母里* 震度 1：安来市広瀬町広瀬祖父谷丁*				
2018年07月19日23時40分 ----- 地点震度 -----	島根県東部	35° 06.9' N	132° 45.7' E	6km	M3.0
島根県	震度 2：雲南市掛合町掛合*，飯南町頓原* 震度 1：雲南市吉田町吉田*				
2018年07月22日02時48分 ----- 地点震度 -----	島根県東部	35° 06.8' N	132° 45.8' E	6km	M2.3
島根県	震度 1：飯南町頓原*				
2018年07月25日10時02分 ----- 地点震度 -----	島根県東部	35° 06.8' N	132° 45.8' E	5km	M2.3
島根県	震度 1：飯南町頓原*				

・地点名の後に*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

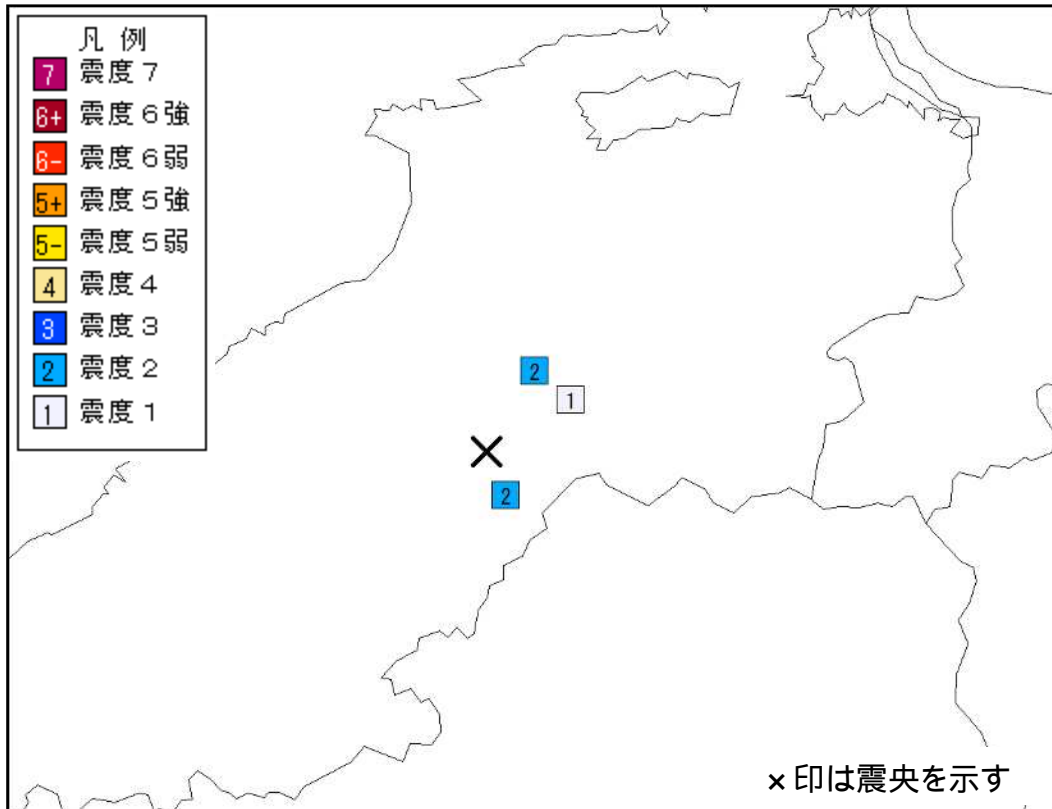
【観測点震度分布図】

2018年7月16日1時10分 島根県東部



【観測点震度分布図】

2018年 7月19日23時40分 島根県東部



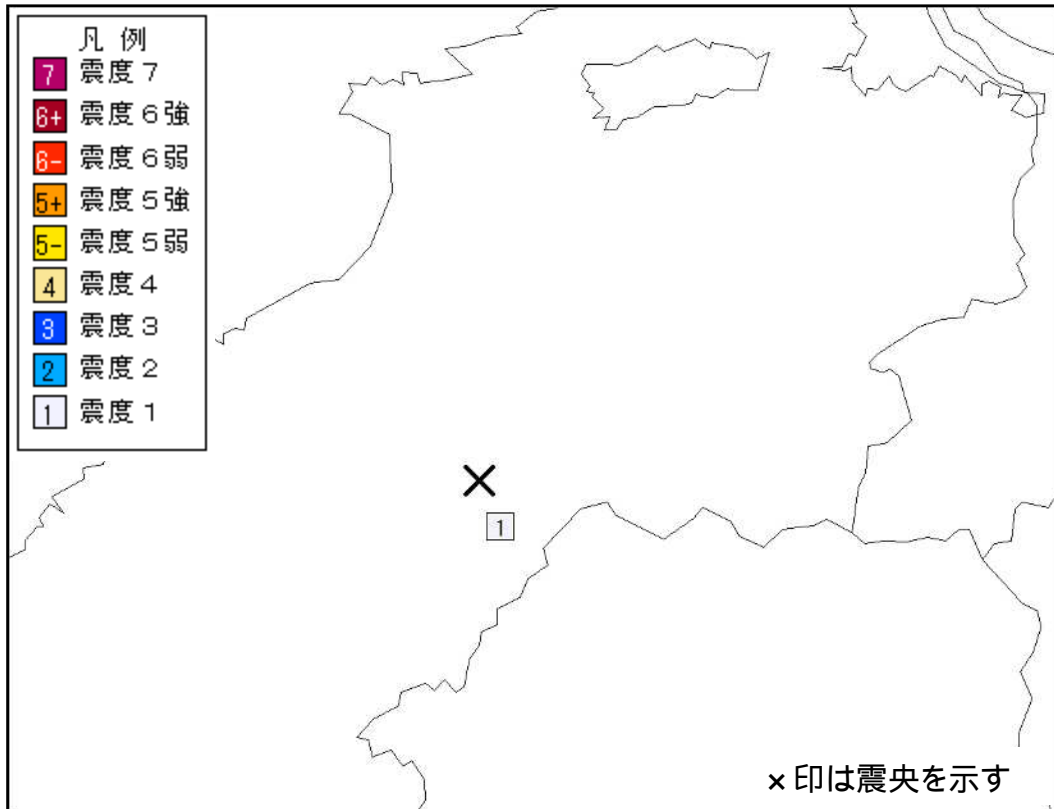
【観測点震度分布図】

2018年 7月22日 2時48分 島根県東部



【観測点震度分布図】

2018年 7月25日10時02分 島根県東部



中国地方の地盤と活断層で発生した地震による揺れについて

地震による揺れの強さは、地震の規模、断層からの距離に加えて、地盤の軟らかさやその厚さなどによって大きく変わってきます。

国立研究開発法人防災科学技術研究所が運営する「J-SHIS 地震ハザードステーション（以下、J-SHIS という）」のウェブサイトやウェブアプリでは、各地の地盤情報や、活断層で地震が発生した場合に想定される震度について確認することができます。

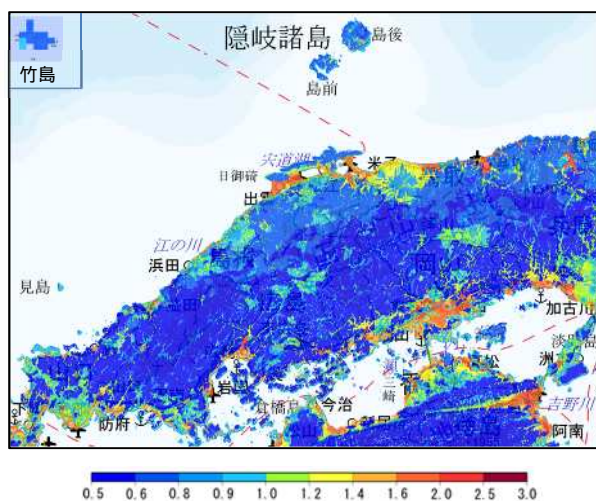
中国地方の揺れやすさを見てみると、広島平野、岡山平野、出雲平野、米子平野、鳥取平野など、土や砂が厚く堆積した場所（沖積平野）で地震の揺れが増幅しやすい傾向にあることがわかります（第1図）。また、小さい河川沿いや、池や沼、河川を埋め立てた場所などでも揺れが増幅されやすいと言えます。

第2図は、「宍道（鹿島）断層」で地震が起きた場合の揺れ（震度）の広がりです。断層帯やその周辺でも強い揺れが予想されています。このように、活断層で地震が発生した場合の予想される強い揺れの広がりを見ることがもできます。

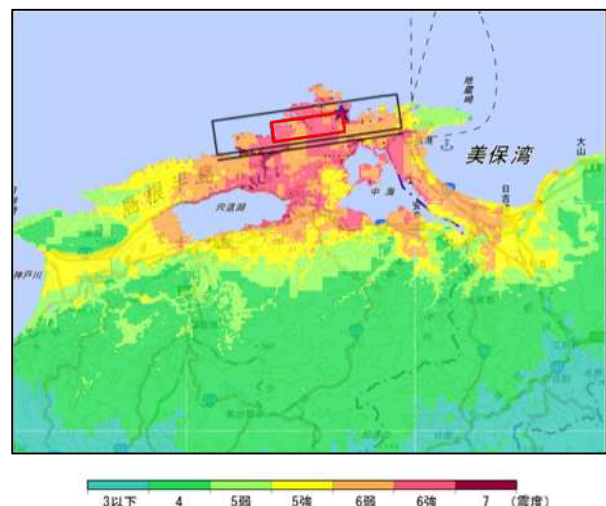
自分の住む地域の地盤や、周囲の活断層で地震が起きた場合の揺れについて「J-SHIS」を使って調べてみてはいかがでしょうか。

J-SHIS Map ウェブ版 : <http://www.j-shis.bosai.go.jp/usage>

J-SHIS 公式アプリ : <http://www.j-shis.bosai.go.jp/app-jshis>



第1図 地盤の揺れやすさ（地盤増幅率）



第2図 宍道（鹿島）断層で予想される強い揺れの広がり

- 震源（断層のずれが始まった場所）
- 活断層の地表の位置
- 地下の断層の範囲
- 特に地下の断層で大きくずれる範囲

出典

- ・「J-SHIS 地震ハザードステーション」国立研究開発法人防災科学技術研究所
<http://www.j-shis.bosai.go.jp/>
- ・「活断層の地震に備える - 陸域の浅い地震 - 中国地方版」気象庁
<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/katsudansou/index.html>